甲斐叢記 前輯 二

和書門 類
二九三三三 號
一一九 函
一三 架
五 冊

内閣文庫
和 書 類
二九三三三 號
五 冊
二六〇函
一三 架

内閣文庫
番號 和 29333
冊數 5 （2）
函號 267 77

日本政府圖書
圖書局文庫

甲斐叢記巻之二

目録

庄名
梨子松蕈圖
市川紙漉圖
肉蓯蓉石斛花圖
保名
柿子圖
九筋二領
栗子圖
夜叉壺濱梨圖
府城

内 一〇八七

牧名
野馬狩圖
邏所
葡萄圖

甲斐叢記巻之二

大森欽　纂輯
峡西
秋山復　校訂

内一〇八七五號

庄名

庄はナリドコロと訓す是ハ産業處の義にて民の産業を勤むる土地をいへはなるべし（日本紀に別業田宅田家等の字をも訓めり）爾雅釋宮曰六達謂之莊又田舎也庄は俗字にて莊と作くを正しとすされど此庄の字漢土にても早くより用ひしとみえて晋人の法帖にも出られ日本紀孝徳天皇大化二年の紀に部曲之民處々田庄とみえ又萬葉集に跡見庄（四の巻）竹田庄（同巻）なとみえたれば此方にても古くより此字を用ひつるなるし後に庄司庄屋なといへるも皆是なり

山梨郡

○山前　又山埼とも作けり今も酒折の東に續きて山埼村なり椿葉記に（入道無品親王道欽の自記なり尊号ハ後崇光院殿紹運録に御諱ハ貞成親王）永享二年十月廿六日御禊行幸なりし　中略　其後かうふり山前の庄を御内當に給はりしと云々

○立川　或ハ堅川太刀川とも作けり今萬力村より溝水を引分つ十八箇村を總稱へる名なり古書にも見えず壬午の尊章に甲州立河の内何貫文とあれど總て村名ハ見えず偖立河ハ縦川なるへし笛吹川ハ子に起て酉に終るまで乃間斜に曲まる川なれど此邊ハ大抵午に向ひ直に流る、所なる故に名とせるなるらん

○大八幡　又巨麻郡にも同名なり八幡村普賢寺に藏めさ

添佛經の尾に大旦那甲州山梨郡大八幡庄中葦原昌亮庵比丘尼聖春應安七年甲寅八月六日書寫之となり　八幡今ハ窪八幡といふ

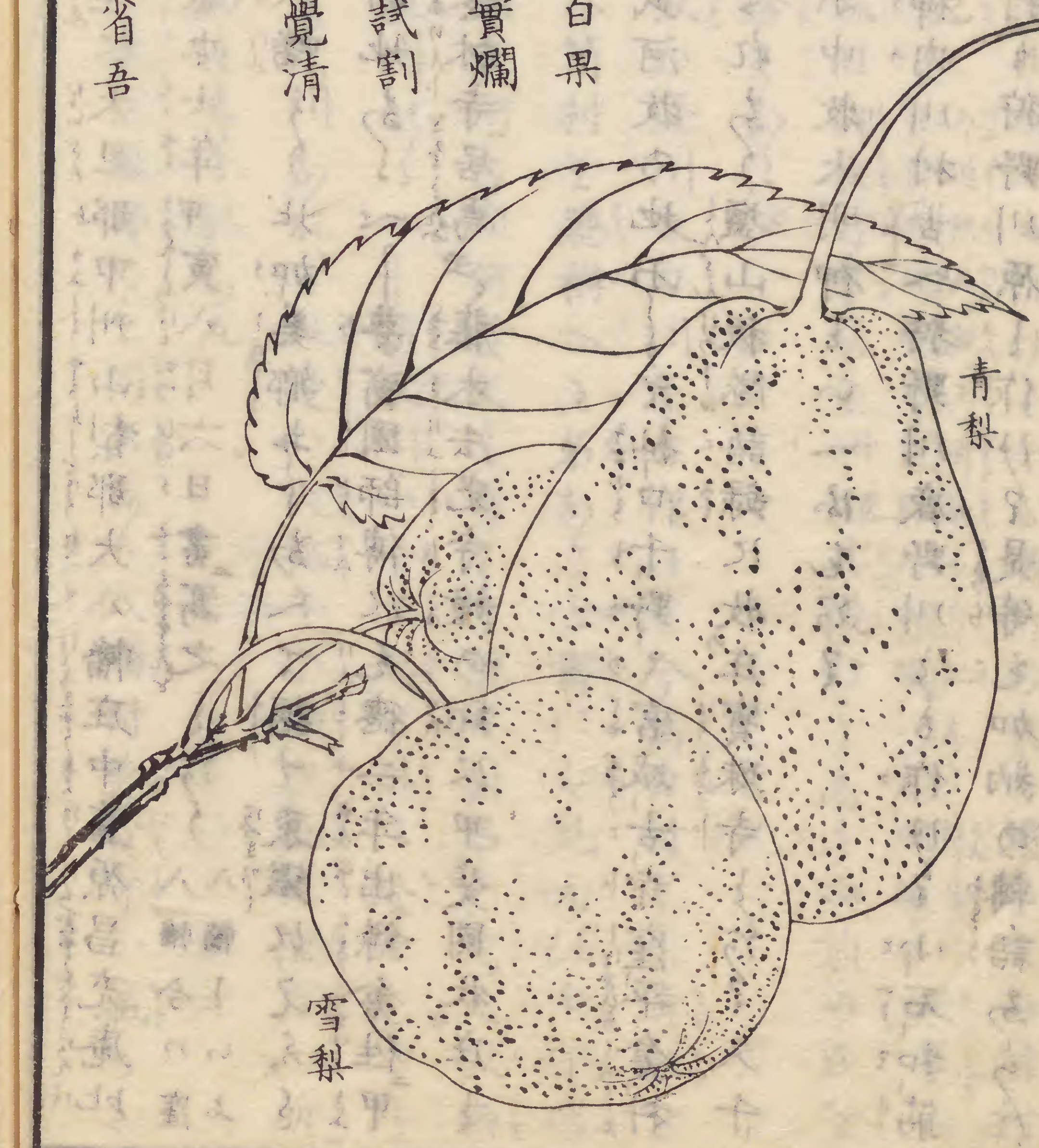
○牧　窪八幡より北加美郷おしなべて稱す東鑑に見ゆる武河牧の地なるべし夢窓國師傳に元徳二年出鎌倉往甲州牧庄創惠林寺居焉云々藤木法光寺鐘の銘に甲斐國牧の庄とあり

○中牧　武河牧の地にして杣口千野三宮城古寺窪平倉科等の諸村これなり鹽山拔隊語録に牧庄寶珠寺とあり又千野三宮村に中牧大明神といへるもあり

○加納　神内川村古へ狩野川鹿野川とも作けり小石和筋の金川原村も狩野川原と作けり是等も加納の轉語ならん釜無川の上流を上ムカハと云しをは彼条に記せる古書

梨

萬樹森〻百果
宗累〻瓊實爛
秋風金刀試割
嚼氷雪忽覺清
香達齒濃
田省吾



松蕈

醃蕈西來畏十重忽
驚風韻此州濃何人
只道兜岩地環遶青
山似洛中
物茂卿

聞開上苑為松蕈西
洛任誇香味殊何料
甲陽使人口飽将禁
齎供行厨
田省吾

に神信濃國を唱る例にて神上の訓通へるを總て諸川をもに
上流を斥て上と云るもんハ論なし金河神内川なともに文字を
後世の轉移にて皆カミノカハと云詞なる事〻加納をカノ
ハる訓みは同じき地名と見えたるを

○一條　舊一條の館を云る今の府城乃地なりけんて此邊
の庄名とせ

○志磨　庄の内に湯嶋と稱せし地あり後世庄名の志磨を
省て湯村と呼ふ村条に詳に記せ

○小松　小松村ハ古府の西に在ま古時ハ西小松と云（栗原筋にも小松村なるも是ハ對へて西とも云るなるへし）石宮神社の棟札に（文明天文永禄寛永以来總て七枚の文を撿するに皆同し）小松庄とあり延寶中の版記に七村とあれそ
も村名具らさもは今詳に記しがたし

○油川

小松といふ所にて
しほらしき名や小松ふく萩すゝき　芭蕉

庄名古書に見えさるなし油川氏の起りし處なるに因て稱しなるや猶考ふべし

八代郡

○八代　郡名に記せり

○國衙　郷名に記せ

○井上　上に同し又東鑑に建暦三年和田一族の闕所を勲功の賞に被行井上庄ハ大須賀四郎胤信とあり

○一宮　本都塚村浄泉寺の本尊厨子の銘に甲州山梨懸一宮庄都塚郷云々永正四年となり又壇田郷の条にも記せり

○長江　郷名小記にあり

○向山　上下向山中畠心経寺右左口藤岱九一色郷の下芦川より東八村を合て十三箇村中道に係れる諸村を向山の庄といひ傳れども古書にも未見ず謂ふに府城乃南面に當る故に向山の庄と呼びしなるべし又此邊山足に傍ふ諸村を指て根方と呼べり古人送別の發句なり

志ての多せ甲斐乃根方にたつるの蝿　　作者不知

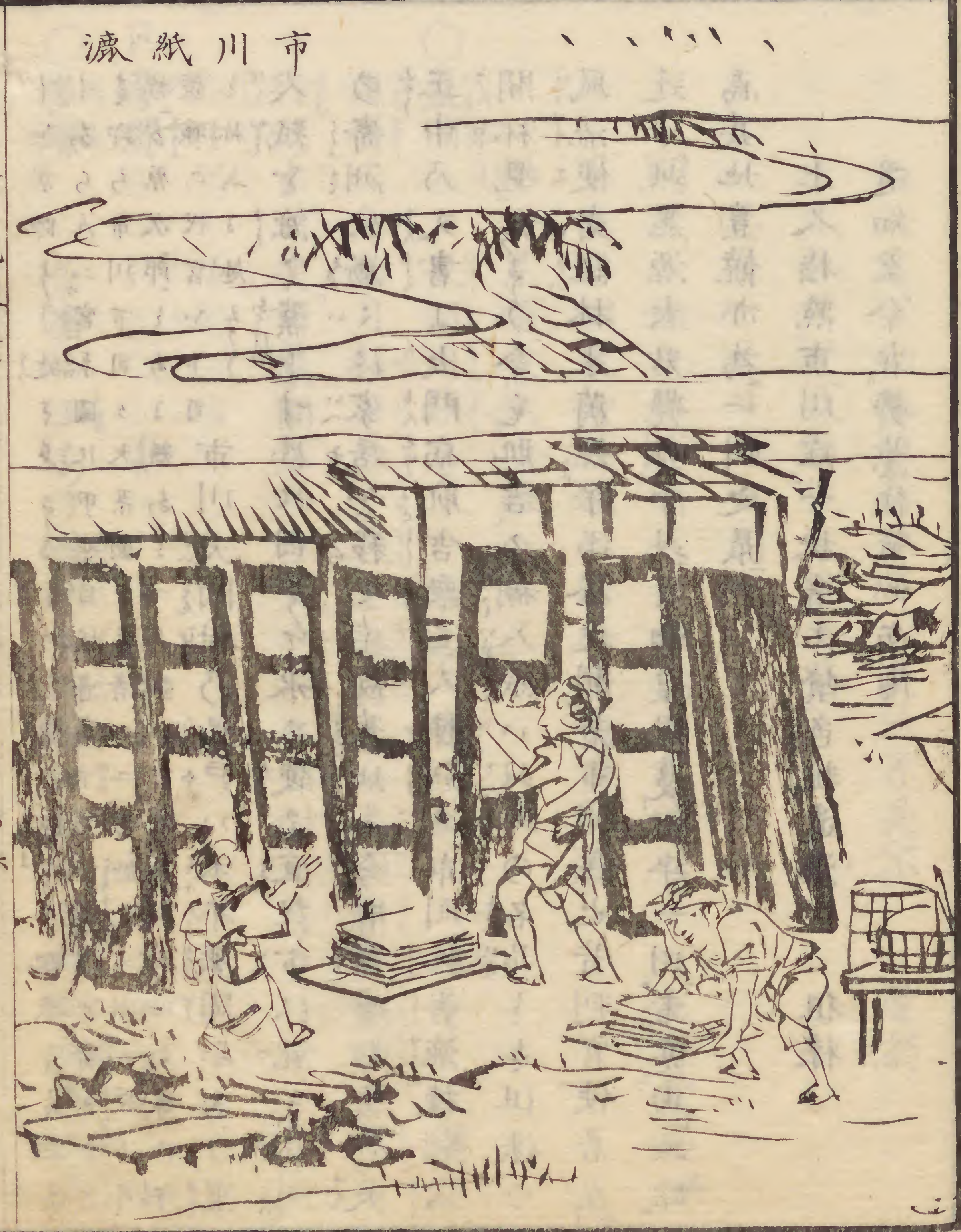
上向山村の清源院といへる寺の境内に昔時向山氏の居址ありと云ふ寺に向山出雲守の牌あり又村戸の内にも壘湟所々に存せり是を天正十年
神祖本州へ打入らせ給ひし時外屏に設られしなと跡ならんなと云るもあり此所七覺川に臨みて要害よき地なり

千早振神のみけあんは坂路や右左口霞む春來にけり　　小原廣藪

○淺利　淺利とは山溪土砂を吐て水のあせて淺くなれるよりしか名あるへし今も淺利村乃東疆に淺利川あり砂石殊に多し村名に依て庄とす東は中道を限り西は市川郷小續にさる淺利、大塚、大鳥居、関原、木原の諸村又九一色郷並三帳、高萩、折門、岱、中山、畑熊、巨麻郡の花輪、一町畑、大田和等の諸村なとも小屬けるを淺利村の西に大森山と云なり郷士山とも稱ふ（大森下野守泰次入道一陽齋と居けりと云）今ハ畠となりぬ

○曾根　郷名に記せり

○青島　又市川庄ともいへり冨士川の涯に青島新田と云處なり是其名の遺れるなり新編纂圖等に刑部三郎義清逸見冠者青嶋庄市川配流きとなり（欽按に義清はじめて官を授り市川郷に入部しけり）


市川紙漉

しを京師より遷さるゝものと思ひ誤りて配流とは記せ
しあらん二の宮系圖に甲斐の目代青島下司とかけるを當れりとす

を即ち市川下司が大系圖に義清の二男師光三州方原下司
稱二方原次郎一とある類なるべし弘安中但馬の國大田文等に守
護職の代官と下司
と稱ふる趣なり

市川大門村乃民戸ハ本平壚岡にあり里人紙を漉て業とすれバ因りて水の便を宜き方に就き芦川の寄洲に漸々に家居を移せし故舊址を今皆畠となせり天正中乃文書ニ大門病肌吉衆三人棟別又市川肌吉漉棟別六間杯見えたり今も肌吉の糊入紙ハ此地の名品とて徂徠の風流使者記林木蔚然乎山谷之間者市川庄也昔判官使君左遷于此黒源太君懸弧于此貞觀皇凬蔓衍乎一州者寔由此始焉其地豐饒亦為一州之最云々

土人指點市川庄。一抹青山貸色粧。遺澤　徂徠
遥知至今在。鬱葱佳氣似南陽

九天遥下仙桃種。蕃殖市川豐沃原。是不
千年能結實。扶踈枝葉滿東藩　雪翁

正月十一日游市川

開歳十餘日。始逢晴色妍。麥揺三寸浪。竹　友野霞舟瑛
罩萬竿烟。堤柳絲猶短。野梅香暗傳。秖應
挽俗累。随意試吟鞭

○巖間　東河内領にてハ勝れて豐饒なる土地なり東鑑に
建暦三年五月和田乃一族を誅罰して其闕所を勲功の賞に
行はるゝ甲斐國巖間庄ハ伊賀次郎兵衛尉となり

巨摩郡

○多磨　多磨ハ玉なり淺川村瑞籬山に玉權現の祠御玉澤

水晶山玉淵等乃名あり金峯の西麓に連なる處にて其下
流を玉川と云ふ此溪の左右に傍ひたる數村を多磨庄といふ
○穂坂　牧名に記せり
○熱那　或ハ厚莱阿津名熱名と作けり西南ハ界河を限り北ハ八ヶ岳の麓にいたれる數村を云ふ村山西割に熱那總社八幡宮あり
○大八幡　今大八田と作きて是をオホバツタと唱ふハオホヤハタを訛りたるなるべし小淵澤の天神祠金鼓の銘に奉施入甲州大八幡庄山宮天神鰐口事云々又大八田の村中を流るゝ多磨庄へ出る河を鳩川と呼ふは八幡河の轉語ならん此地は當時八幡の神乃大社ありて神の御名より出たる庄名と思はるゝ又ハ鳩を此神の御使なりといふ諺によりて川の名にも負せしにや
○武河　下卿起請文に六河衆何某とあり宮脇村某の藏にてある舊記に六河郷内折井入戸野圓井五十貫とあり又古老の説に郷中に尾白河大武河小武河濁河流河黒澤河六派あり釜無川に注ぐ因て名づくと云
○甘利　大井共に郷名に記せり
○鷹津名　平林村鷹尾寺嘉吉三年の棟札に胡麻郡鷹津名庄平林之郷とあれバ此邊源氏岳御巣鷹場に近し地名多く鷹乃字を用ふ鷹尾（平林村）鷹林（春米村に在て今高林と作けり）鷹折（今高下村と作けり）鷹座山等あり鷹津名の名合なるもしく津名の津ハ助辭にて此地鷹小名なる處あるハ斯も呼ひしなるべし
○壮條　大井郷の内中世乃庄名あり宮澤村深向院天正十

一年卯月廿日の尊章に北條之内三十貫六百五十文とあり大井系圖小北條大和守といえたるは應永頃の人とおぼし又此南に天神中条と云村あり北條南條の間にある故なるべし

○南條　最勝寺村最勝寺の尊章に最勝寺郷内二十七貫五百五十文とありて慶長四奉行の黒印には南條之内と記し慶安以来乃尊章に南條折と有り時田氏が賜はりし尊章に南條之内小林分と見ゆ今新津氏藏めあり古時は八代郡黒澤村を大井南條に屬ける趣なれば刀袮川の南九て南條の庄と唱へしなるらん

○八田　牧名に記せり

○加賀美　或は各務又鏡に作る寺部村八幡祠天正中乃杉板に加賀美庄七村を引佐久保野呂瀬小柳藤田加々美中條加々美寺部と有り引佐久保野呂瀬小柳は民戸亡きて地名のみ存せり尚法善寺の条に記す

○鮎澤　又相澤とも作けり里人傳る所は若宮八幡祠[古市場村]を産靈とすれど古市場清水戸田宮澤大師荊澤等なりといへども未だ證書を見ず或は鮎澤長澤を加へ七村なりと云と二村は祭神を異にす

○奈胡　或は奈古那古とも作る今は南胡と作ける東西二村有り按ずるに奈胡とは土の肥て和やかなる由の名なり方言に土の肥美をナゴ真土と云へり此庄諸川の下流に在て自ら和土の集まる地なればかくは名付けしなるべし明徳二未年法善寺領記に七段奈胡の庄淺原郷之内中泥村に有之

石楠花

肉蓯蓉

此二種ハ富士ハッ岳白峯金峯の諸山ニ産す

柳蹊吉田道寫

云く武田古系圖ニ東西奈胡、和泉、田島、淺原、今福、藤巻を土手外七村と云となり今ハ釜無川此庄の中間を流れて今福同く新田、藤巻、臼井河原は川の東に在り

○稲積　里名に記せり

○布施　春米村明王寺の地藏靈驗記ニ胡摩郡布施庄と申ハ上古小井河庄とぞ申ける其頃儀丹上人と云明匠あり 中畧 帝王御病脳により祈禱を命せられ法驗新らたなれバとて其地を布施物に給へり因て地名となると云今地藏の辻と云處に地藏の石像一軀存す最舊物あり戀川 戀川小井河假字ハ異なれどこは俗傳のまゝを記すなり 地藏と唱と云又地藏院と云小庵在り本村は府より二里許市川鰍澤の岐道なり小驛にて四達の地なり上下三条、山神、河西、此諸村此小屬にて古時ハ同村と見えた

り又武田刑部大輔信成朝臣の庶子に布施滿春なり村条に記せり

○下山　大系圖に下山小太郎光重ハ秋山太郎光朝の男とあり東鑑文暦二年の記に下山次郎入道又弘長三年の射手に下山兵衛太郎と見えたり日蓮上人の書に下山消息と云ものあり年譜に下山の邑兵庫光基受戒云々 下山書 啓蒙 太平記ニ觀應三年將軍武州乃府に着給へは甲斐源氏云々下山十郎左衛門都合二千余騎馳參ずとあり暦應元年奥州の國司從軍の中に南部下山見ゆ 觀應三年の記に南部和泉守下山但馬守と作けり 本村の本國寺に下山光基の位牌在り此寺光基の館址なりと云 寺記 天正中穴山玄蕃頭信君梅雪の封邑となり下山光基の居址に據りて版築せりと云ふ本國寺の域より村居にかけて今も湟荒壘

調馬埒ありと存せり寺の城に八幡社を祀り宍山八幡と稱ふ此處居館ありへし寺の前を大庭町といふ城墟ハ西山上に在り當今城山と呼ふ宍山氏ハ武田の令族にして威望ありて甚だ驕敖なりしとぞ里老乃説に京師の土を採り運びて其地に布き地盤を造る又神社佛區の名號も京師に準て數多乃寺社を創立しと云今存あるそ上賀茂社一ノ宮と稱下賀茂社二ノ宮と稱す飯繩權現三ノ宮と稱す南松院、龍雲寺、妙見寺、新長谷寺、住吉神清水觀音、北野天神、愛宕權現等、此外猶多し鐘打場、焔硝倉、弦巻、的場ありと云傳ふ又壘壁臺基ありと存せり本村ハ西に山を負ひ東を冨士川に傍ひ北に早川の急湍なり南を身延山に續き波木井村の堺宮乃北に関島と云處存す関門の跡あるへし界内方一里余要宮堅固ある地にして河内領第一の殷邑なり

都留郡

○雀田　奥田九の舞に奥田九ハ和田義盛乃弟和田の三郎宗實が子との年十三雲井の雀を射とそれける頼朝烏帽子兒として和田の平太胤長と名のる則ち數多乃庄を賜ふ近江に河原庄伊勢に車庄尾張に青柳庄美濃に山田庄信濃に井へ
の庄甲斐に雀田庄越前に田中庄ようき庄七箇所賜はるとなり是本郡乃雀川雀嶋の両村に雀田といふ地なり此あたり古時乃雀田の庄なるへし猶考ふへし

○大原　河口湖の涯に鰲田なる大石、長濱、大嵐、鳴澤、勝山、木立、船津、河口、淺川、新倉等の諸村を大原乃庄ありといふ古時八代郡に属けりといふ凡て冨士乃煙火に係る處ハ古今乃

變遷を量めしし按するに大原ハ大嵐の轉訛なるへし

○波加利　里名にをかり東鑑に建暦三年癸酉五月四日甲辰古郡左衛門尉忠保兄弟者於甲斐國坂東山波加利之東競石郷二木自殺云々七日勲功之賞事今日先被定之波加利本庄武田冠者同新庄島津左衛門尉とあり按に波加利ハ初狩なり又初鴈と作く黒岱より下初狩まで皆一郷なるへし今中初狩下初狩ありて上初狩なし黒岱芦窪道てらし又阿弥陀海白野の三村古へ上初狩の地なるらん

○古郡　○福地　共に郷名に記せり

保名

保又堡と作けり周禮地官大司徒令五家為比使之相保とあり又我邦の俗にいはゆる組合乃義なるべし又小城為保とを有て邊塞たる所に土民のこもる砦を堡と云ふ今の保と云へるは是等の義なるべしや我邦の古にも見えさは翻あり又坊堡らあり制度通に詳乃義にて地名にも為たるこの拾芥抄に凡一條之内有四坊一坊之内有十六町十六町之内有四保と是あり畢竟八戸為行四行為町四町為保四保為坊四坊為條となるは是京城坊保の積りなり毎國かく此如き地なるにあらき小非す然るを所在に保と云地名なるは此積りより轉したるなり東鑑神皇正統記などに庄保と併稱したるを見るに庄とも地形に因らざる呼名にて保とは民屋の聚落て一締

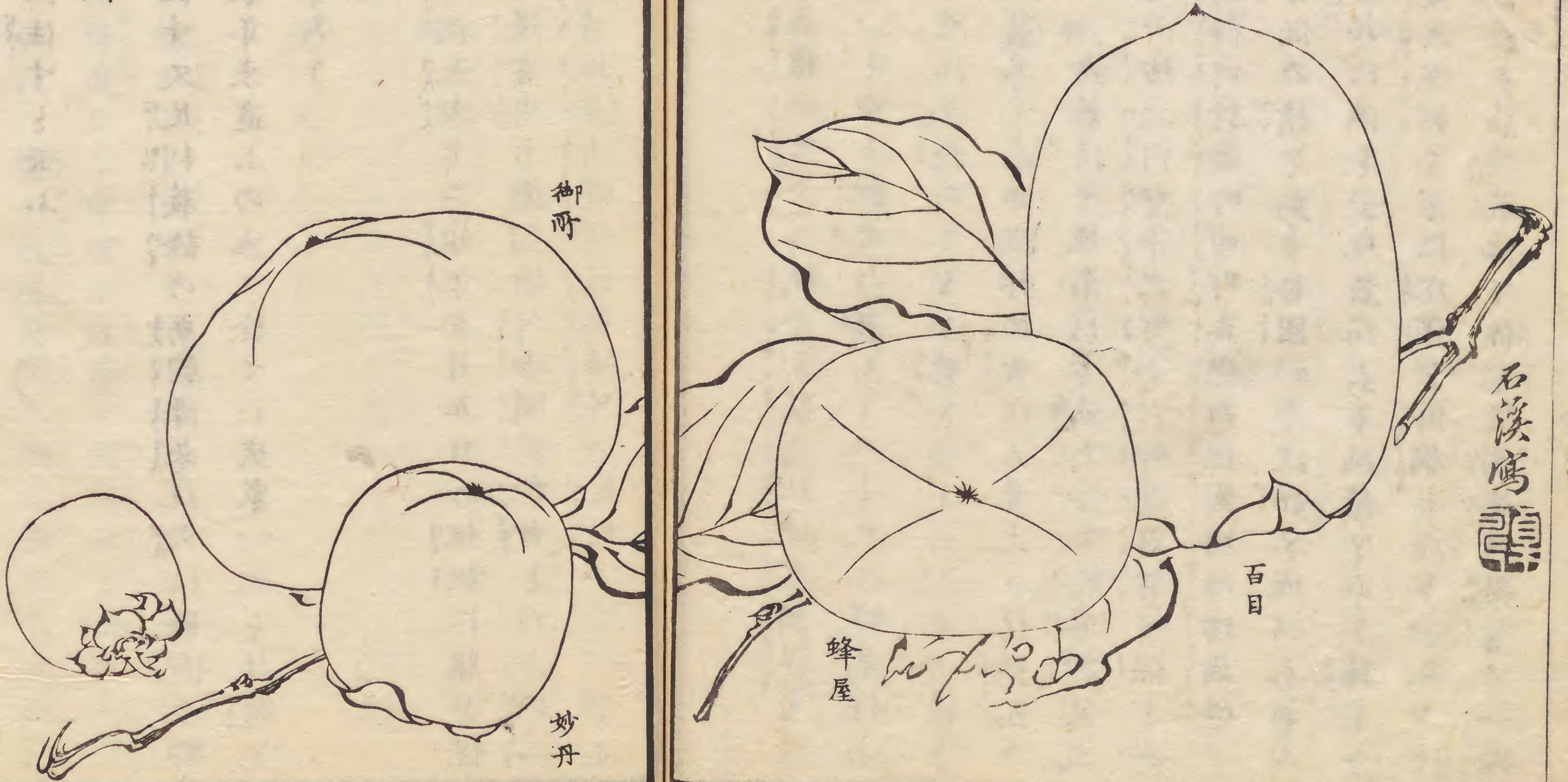
千戸侯園七絶
林接枝欝密盡
成陰朱苞丹實
熟風落稚子拾
来咲不禁

田省吾

吾邦柹子蓋勝
中華為種太多
而方柿名御所
者為最上品

新果綴層枝紺園
秋正宜金津調露
熟赤玉向晴垂採
摘霤非爛剖分披
自離甘香充法喜
服食笑玄滋那數
中山果寧多太谷
梨日東多品種御
所獨堪推

大典禅師



まとありたる所と云名あるべし

西原堡 山梨郡

西原村に在て三方絶崖にして要害の地あり村老相傳て昔時遠藤某こゝに住すと云ふ

國衙堡 八代郡

國衙ハ郷名に記す又足利義詮の南朝降参の文に國衙の郷保并に本家領家年来進上の地に於てハ武家一向それ綺を止べきにて候とあり

藤井堡 巨摩郡

下圓井村諏方神祠天文十二卯年五月五日の板記に藤井保之内境村住人小澤宮内右衛門尉久吉閨室敬白とあり穴山より南小田川、駒井、坂井、中條、下條、薤崎等の數村を云へて西ハ穴山新府の臺東ハ鹽河を帯ひ北ハ桐樹川を界とし藤井渠亘れり水利自在を得て夏ハ田と為し冬ハ陸田と為す且諸村の末に居て餘水聚来まるゆゑに田地至て肥たる園大暦に貞和二年二月十九日の除目甲斐目藤井有彦と云者なり古昔これらの采邑にてもやありらん

福田堡 仝郡

湯村乃鹽澤寺を福田山と號せり俚老相傳へて此邊庄保乃名なりと云ふ又接近ある中村の産靈を福田社と稱へ金竹村にも同し號の社あり鹽山抜隊語録に福田縣有長壽住持任知實并姉妹兄弟等云とある福田縣も此邊乃地と云よしあり

○西保 山梨郡 保村 巨摩郡 なとを皆民家の聚れる一簇の地といふ

あるべし

九筋

筋ハ倭名鈔に須知と訓て條は字の義と相似たり本州乃内郡内河内二領を除き其餘九つに引分ちて其筋くくと唱ひ分ちし名目あり今の世に東海道筋西國筋関東筋など云ふを全き名目にハあらざれど是と似たる事あり

萬力筋

山梨郡の表門山梨加美の古時は三郷及び板垣里山前庄立河郷大八幡庄中牧大村西保竈戸郷など皆此筋に属き鴈坂口乃道を係れり按に上萬力村有て下萬力無し落合正德寺山之根三村ともに亮る由なれば廣き村なり此筋は府の東に在りて左ハ川を帯右ハ山に傍ひ草木繁りて水脈多くして水旱の患なく五穀よく實り菓實甚多し且へ蚕桑なども

業とす國中第一の膏腴たる地なり栗原大石和の二筋も土地大抵相似たり

栗原筋

萬力の東にありて山梨郡の於曽玉井大野栗原等力の古時の五郷及び深澤御座牧庄恵林寺等諸郷此筋に属けり萩原口の道を係れり

大石和筋

栗原の南にありて山梨郡の石禾能呂林戸井上の古時の四郷今は八代郡とあり此筋に隷き石禾御厨林部郷塩田郷一宮庄黒駒等皆此に属き鎌倉海道を係れり

小石和筋

八代郡の八代長江白井の古時の三郷此筋に隷き小石和十村舊山梨郡の域なりしが後こゝに併す武部（今ハ竹居と作けり）小谷等の地も是につゞき若彦路も係れり此筋は大石和の西南になりて土地大槩大石和に類して腴壌なり綿綿殊に多し

中郡筋

府の南にありて山梨八代巨麻三郡に係れり山梨の中郡は石禾青沼の古時の二郷及び一條庄稲積庄鍛冶田郷等此筋に属けり

八代中郡は古の沼尾郷及び淺利庄向山庄九一色郷等是に属き右左口の道を係れり此地山を南に負ひて山間に村落多く瘠土多し

巨摩の中郡にも古の郷名なし鎌田郷加藤郷奈胡庄是に屬く又稲積庄を係れり山梨巨摩の中郡は一帯の地にして西に

石溪栗山壽寫

籩實秋方熟時墮
收拾未成其傷如足
謂穀陽林環
湊齋松井濤

栗熟園林秋
半时黄毬如
猬磔枝无数
三陟地菟初
獮已被猴究
巫得知
昂齋吉江權
浩齋多錄

釜無川なり東に笛吹川なり荒川其中間を流る土地卑下して漲溢の患歳〻にあり然れとも方二里許の間打曠けて目に遮る山林なし空に連る水田乃ミ少く空閑なる餘地なし稲も美に木綿を佳し豊饒の土地なり

北山筋

山梨巨摩二郡に係れる山梨北山に属ける青沼巨摩乃二郷ハ古時皆巨摩郡の地なれとも後に青沼を分て山梨郡に隷まし荒河を界とし一條郷の中に府城を築かる小松庄塩部等を是に属けり

巨摩北山ハ志磨庄穂坂御牧亀澤郷等是に隷き穂坂路を係まり此筋ハ府の北に在て山を負ひ河に臨みて巨摩郷ハ山間に在て狭く僻まり穂坂庄ハ旱燥て水に乏き地なり

逸見筋

巨摩郡古時の郷名なり大八幡熱那多磨乃三庄と坂上坂下と称ふの筋に属す乃はち逸見路にて大門嶺口の路を係れり此筋ハ北山の西にありて八岳の南麓に依り土地爽塏し山溪多く流出て田に灌に便よし風俗質朴にして産業を勉む駒犢を産し秣芻繁し

武川筋

巨摩郡真衣餘戸の古時乃二郷及び大草郷此筋に属き信濃路を係まり此筋ハ釜無川を隔て逸見の西にあり土地略逸見に類すれとも少しく劣れりとい

西郡筋

八代巨麻二郡に係れる八代の西郡に属ける市川郷ハ古時巨

摩郡に在しが後に八代郡に隷けり河内路の古道此に係りて土地八代中郡に略似たり

巨摩西郡ハ古の大井郷及ひ八田御牧加賀美南條鷹津名等の庄是に屬す河内路の今往道と西郡路皆こゝに係れて原七郷ハ地高にして水甚だ乏しく林薄多し磽确の陸田のみにて麥粟蕎麥等を多く藝れり

二領

二領とハ東西河内領（河内の条前に記せ）と郡内領（都留郡）を斥ていふ領ハ素郡の大領小領（郡の条に記せり）より出たる稱にて郡を司る官の名なりしが轉て直に封邑を斥て領となす此地穴山氏の封邑なりしより斯く謂へるならん又都留郡を郡内と稱ひしハ軍鑑等にもみえて久しき俗習なり東鑑に從五位下藤原俊綱（足利太郎）領二掌數千町一爲二郡内棟梁一也とかるも同じ言にて小山田氏累代一郡を領せしかば國中又ハ國内なども云ふに倣て郡内と唱へしなるべし

河内領

冨士川を隔てゞ東西二領とす西河内も總て巨摩に屬す下山庄南部御牧飯野御牧早川入中山等是に屬す乃ち河内路なり

東河内ハ皆八代に係りて岩間庄六組（岩間、古關、常葉、田原、帯金、大島、）下部等是に隷けて此地本州の南へ差出たる處にて山長く澗多し山溪の間に村落あり燒畑を耕して雜穀を種ゆ水田少し

郡内領

都留郡を總て郡内領と云ふ古時の七郷ハ前に記せり今田

破魔梨

此二種冨士山に生す

柳蹊吉田猶写

夜叉壺

琢華

原郷葉置庄波加利庄古郡庄福地庄大嵐七郷なり又一郡を
二に分ち南を上とし北を下とす今の通稱なり江戸路此に
係あり土地廣くして皆山なり水田甚すくなし蚕織を業と
して利を得る事多し殘簡風土記に福地郷此俗不食麥毛與
食則無觸其香多者常食栗稗之粥而已となり其内乃偏土に
ては今に箇様乃所もありといへり

府城

國府　和名抄に府在八代郡行程上十五日下十三日に拾芥抄山梨
代郡と云るか八代披に古昔の府ハ八代郡乃八代郷になり
乃誤字なるべし
國衙と稱ひて今村名に存れり

武田氏府城　新羅三郎義光朝臣甲斐守に任せられしより
子孫累世本州を領し鎌倉乃頃よりハ守護職に補せられて
始ハ石禾御厨に居れり其後小石和千野巖下等へ遷されし事
數あり又跡部上野景家が武田の守護代たりし時に今の國
府と云る所にて國事を沙汰せりと云り此邊ハ皆立河の庄
なり永正十六年信虎朝臣石禾館より躑躅崎に遷らる乃は
ち今古府中と稱へる所なり天正九年勝頼朝臣逸見乃韮崎
に城を構へて引遷らる是を新府と云ふ幾程もなく時世變

すて荒墟となりぬ

府中城　古へ巨摩郡青沼郷の域なりしが後に山梨郡に属きて北山筋一條庄なり古時一條次郎忠頼朝臣の舘なりて小山と呼し地なりしが忠頼乃殁後其胤追薦の為小佛寺を剏置て一條道場一蓮寺と稱しき文禄慶長の間一蓮寺及び湯田の民戸住吉明神〈一條庄の鎮守神〉乃社等を今の地に遷して再び城地となしたるなり尚委くハ別に記せり

自府中四方里程

京師　東海道百九里廿町　東山道九十八里半
江戸　甲州道中三十六里　青梅通三十四里半
駿州府中二十七里
同州大宮十七里
豆州三島二十三里
相州小田原二十六里〈但柄通足〉
信州岩村田二十一里
同州長窪二十四里〈但捧道通〉
同州上諏訪十六里廿八町
同州松本廿四里三十町
同州高遠十八里半
同州飯田廿八里
都留郡谷村　御坂通十四里　笹子通十里半

牧名

牧乃字和名抄に無馬岐と訓せり新井氏ハマキのマハ馬な
りキとハ置なり馬を放ち置の義なりといへり或説に梅を
ムメといひ馬をムマといへる類を正しく古言にハならで
和名抄の頃既に訛りたるものなりといへり欽按に牧ハウ
マキの畧なり馬城或ハ馬飼なりウマのウを省きカヒの約
キなり原野に馬を放飼といふ義なるへし揚子方言に牧を
飤也となり注に謂放飼牛馬也飤畜養也となるを併せ見へ
し又或説に馬城をトリコメとも訓せりと云ふ茅兵の禁入
會場にこの地名ありて馬城と作けり小笠原御牧乃接近な
れバ必ず牧あるへし牧の長を別當牧監といふ延喜式曰官
牧馬帳甲斐信濃上野三國ハ任牧監武藏國ハ附別當六 又野史
に牧士の名目見えたり

穗坂 巨摩郡 北山筋

志磨庄の西に穗坂の臺とて小坂なり 穗坂路
高廠き地にして眺望最よろし冨士の山巽に聳ゆ延喜式に
甲斐國御牧柏前眞衣野穗坂凡ツ年貢御馬六十疋 眞衣野柏前両牧三十疋
穗坂牧三十疋 日本紀畧本朝世記等に毎年八月十七日穗坂の駒牽
ありと見ゆ此所の諸歌家多し今一二を採出てこゝに記ス

あふ坂の笹原千代ハ十やかまれ田の穂坂乃駒をむつるらん　權中納言公實卿

秋乃田の穂坂に駒を引ほそとるも遠れぬ代のかひもあるらむ　後村上天皇御製

時きぬと我も狹ふ秋の田に於さ乃駒とけふそひきける　入道大納言

笠乃戸に出立あかつけ見ゆるなり穗坂乃駒をふつやあるらん　隆源法師

はやる草に穂坂の小野をかまれ駒秋を都へひくらんとすらん　權中納言師俊卿
なる法師にかへりて

穂坂越て駒ひかふとも人もありやかりそめなるし哉　前中納言匡房卿

ほどなき秋は来にけり穂坂の駒をいさや引らん　衣笠大納言

小笠原 巨摩郡逸見筋

按に此牧ハ古歌に詠たるまで延喜式拾芥抄其他の歴史に穂坂、真衣野、柏前の三牧の外はみえず東鑑に承元五年五月十九日小笠原御牧牧士與奉行人三浦平六兵衛尉義村代官有喧嘩事今日被経沙汰云々とみえたるはなり古ハ小笠原村の北上手、浅尾、神取の諸村引續たる郊原なりし由今茅嶽の麓乃入會場に馬城の壘の形存せり

都までなつけてひくは小笠原へみの御牧の駒にやあるらん　紀貫之

小笠原みつの御牧にあるゝ駒もとればぞなるゝこらが袖かも　作者不知

をがさはらみつの御牧のあれ駒もひけばぞなつくなれぞしりけり　顕仲朝臣

なはしろもいつくる草わけてみつの三牧にかへる駒　基俊

小笠原はらにやくはやまさくへよもすがらまちの駒　仲實朝臣

はるゞみし穂牧にあれてし駒をやなつけん草がくれ　従三位家隆

ひをへつゝ沢の中もえ草まだはえぬ駒ぞいさむる　橘能元

按するに穂坂ノ庄に三澤村なり又小笠原の方へ通ふ路に三澤通といふ路なりとこれを示す

小笠原焼野すゝき中のぐれば立ぐろにいさむかひの黒駒　俊成卿

ほのかにまきの草もえいでし小笠原駒のけしきも春めきにけり　僧都覺雅

小笠原逸見の牧をとへば野辺にかすみてなびく春駒　牛山直房

小笠原 在柳澤作

騎射典型本衛垣。三郎家法最長存。武田世藝將家種。何問支流小笠原　徂徠

漠々荒原晝作田。稲粱秋熟一年々。昔時牧馬知何處。唯有閑禽噪暮天　小尾鳳山 保教

野馬埒

因に云小笠原牧ハ穂坂牧に属して元来巨摩の郷の内なり六帖に紀貫之が歌を載て逸見御牧と題したまへハ小笠原と連續たる一牧乃名とは聞え難し小笠原を逸見と二所に分ていふ時ハ小笠原ハ穂坂牧の内にて逸見ハ乃ち柏前牧を云ふならんか又美豆御牧といへるは穂坂小笠原柏前の三所を指て云なるべし

柏崎仝前

ヨセ北牧ヨセ　樫山村に柏前牧と云ひ傳る處あり野馬平南牧懸札等云ふ地存す小念とて念場原に續たる寛曠なる原なり古史にみえたる柏前の地後世審かならず山梨郡柏尾に尾崎林なと云處ありて黒駒山へも續き牧の事に縁あれは是を柏前牧ならんと云へる説をなせれど

御牧考並名勝

志

此柏崎を灼然なる古跡なり今樫山にて云を柏乃假名にて崎も前も共にサキと訓むべし唯文字の換れる乃ミ素柏山乃尾崎と云ふ義なれは彼の柏尾ハ自然似たる地名と聞えたれど此處ハ穂坂の山に聯なりて金峰の山脈斷えざる地なれば牧に名あらんも知ぬべし今に馬兒を畜て産の助とするものも少からずと云

逸見乃牧乃神社へ奉られし歌　谷戸村の諏訪明神の社号なり

幾代くる馬を任せ牧に宿居して動かぬ神のまもりなるらん　日野大納言資矩卿

小笠原は牧乃駒のなつきもあまりぬや神のこゝろなるらん　加茂行越中介直慶

浅からず神もまもらん千年まで馬をつくれは牧の神乃あそを　榮名井聰翁

小笠原逸見乃はらを越くれば　河野茂門

逸見　澤作　在柳

逸瞻御牧指東山。天厩尚傳十二閑。伯樂　徂徠
如今何處在。莫留龍種落人間

真衣 巨摩郡 武川筋

今乃牧原村乃地なり郷名にも記されし牧原は駒嶽鳳凰山の東麓の地にして地廣遼なる所なり今は盡く田となれり古歌に御真衣乃原と詠めり

ふるさとは木高き梢影靡きみまきの原や恋しかるらん　作者不知

八田 巨摩郡 西郡

高尾村御崎の祠に桂鏡一面なり圓經八寸六分三體王子乃像を鐫れる銘に甲斐國八田御牧北鷹尾天福元年癸巳大歳十二月十五日大勸進蓮華坊辨慶となり加賀美小笠原等の村邊より北を里人八田庄と云傳ふ上八田村なり最勝寺鐘の銘に八田御牧となり此邊にては西山の別名を八田山とも云へる續日本後記に承和二年四月丙子甲斐國巨摩郡馬相野空閑地五百町賜一品式部卿葛原親王とあり馬相野乃地今詳ならず按に御勅使川乃南に傍ひ駒場村に相續て有野村なりそ有野は馬相野を略轉しける言とおもはしければ其馬相野は當時八田御牧の一名にて乃はち此地をいひしなるや斯ふ曠宏の地にあらざれば空閑五百町の地有べきにあらねばなり

武河 山梨郡 萬力筋

又竹川とも作けるは東鑑に建久五年三月十三日甲斐國武河御牧駒八匹參着被經御覽可被進京都云々牧平にて滌川赤芝川合流し竹川と名付く乃ち西保川なり東鑑に武河と書たるも故に巨摩郡乃武川に混れたり牧庄の内一般の馬城とみえたり

黑駒 八代郡大石和筋

日本紀　雄畧天皇十三年木工猪名部真根

有罪仍付物部刑于野中略以赦使乗甲斐黒駒詣刑所止而赦之
解徽纆復作歌曰農播拖麻能柯彼能矩盧古磨矩羅枳制播伊
能致志難磨志柯彼能倶盧古磨とみえ又續日本紀　聖武天
皇天平三年十二月甲斐國獻神馬黒身白髪尾中略其獲馬人進
位三階免甲斐國今年庸及出馬郡庸調其國司史生以上並獲
瑞人賜物有差云〻なれ等皆此牧の産かや聖徳太子驪駒の
ことハ佛家乃書に多くみゆ後れ史録かを黒駒牧乃こと見えさ
れバそを今に藤木病の支村に駒木戸と云處あり即ち黒駒牧
乃木戸などありし所ならん黒駒山の西に續たる小石和の
諸村古時の牧場なるへし大野寺乃山内なとを牧馬のことを云
傳へたるも寺の条に委し此牧の驪駒世に名有りしゆゑに後にハ他
の諸牧よりいでくる所産をもすべて甲斐の黒駒とて稱譽をしると
みえたり北条五代記に清水太郎左衛門か馬ハ甲斐黒とて
一日ニ大豆一斗ほど食ふといふ類あり

まきのかくふたれ黒駒うちならし君を来まさで独のまいらせけ　作者不知

逢坂の関の杉むらこぐらきにいさやまぬらん甲斐の黒駒　仝

東路のひの黒駒引つれて乃まていさむる春日峰はら　仝

はる杉乃里ちくさをうつされて志なしいさる黒駒のかな　宗祇法師

南部巨摩郡河内領　日蓮上人の消息書に南部御牧波木井郷又飯
野御牧三箇郷之内波木井とを見えて波木井村乃南二十箇
村ハ凡て南部の御牧なり飯野ハ其内にありて又らまを三
箇郷に分ちしならん飯野ハ今大野と作きて大野相又波木
井れ三村ハ地勢も自ら異なれば馬城乃名をも別に立て飯
野の御牧と稱しなるへし

飯野仝前　又大野とも作けるを前に記

邏所

通鑑乃注に胡三省曰邏所謂津要置邏卒之所とあり我邦にて今の口留番所といへるもの是なるべし大小の異こそあれど要路を塞ぎて非常に備ふることは關と同じかるべし關は和名抄にセキドと訓て在境所以察出御禁入也とあり眞名伊勢物語には塞とかけり何も人を防き留るの義なり孝德天皇大化二年に始て關塞斥候防人を置れしことみえたる防人といひ太宰府及ひ三關（伊勢の鈴鹿美濃の不破越前の愛發之）等を守防る兵といふにてセキモリと訓むべし本州には武田氏二十三所の塞門を置て要路の固とせし上世の遺制ありとみゆ

萬澤　河内路に係る駿州口なり巨摩郡萬澤宿に在て

十島　東河内領乃駿州口なり八代郡十島村になり冨士川

通船の改を兼ぬ

本栖　右左口路に係る駿州口あり八代郡本栖村になり

古関　右左口路に係る郡内口あり八代郡古関村になり同村にて是を衛る

山陰にすみし家居もいく世経る関の柴垣あらはなるまで　上條義冬

古関　東河内領の郡内口あり八代郡古関村に在る古関中倉釜額三村にてこれを衛る右と合せて二所ともに本栖の重関あり故に古関と称ふとぞ

黒澤　東河内領の堺にて十島の重関あり八代郡黒澤村になり古道は帯那通へ係れし故に彼処にも古関の跡あり黒澤村これを衛る

鰍澤　西河内領の堺にて萬澤の重関あり巨摩郡鰍澤宿になり古時の西郡路は小室村より係れし故に彼處にも関の址なり後此處に遷さる鰍澤宿これを衛る

芦川　若彦路の郡内口あり八代郡上芦川村になり本村並に中芦川の二村にて是を衛る

黒駒　鎌倉海道に係る郡内口あり八代郡黒駒村になり本村並に藤本の二村これを衛る

山口　武川筋の信州諏訪口あり巨摩郡上教来石村になり

庭の鳥なかぬと告ふにつぐ関にまくらのうへの雲　河野茂門

関の戸やたゝくもたゞし膝のうへ　闌更

小淵澤　大門嶺へ出る信州口あり巨摩郡小淵澤村になり本村これを衛る

小荒間　前に同じ巨摩郡小荒間村に在る本村並に小松向

白井澤の三村是を衛る
大井森　前に同し巨摩郡大井森村になり本村並に大下八田村これを衛る
笹尾　信州路乃斥堠あり巨摩郡上笹尾村になり本村並小下笹尾の二村これを衛る
長澤　逸見路に係る信州平澤口あり巨摩郡長澤村になり本村是を衛る
淺川　前に同し巨摩郡淺川村になり本村並に樫山乃二村是を衛る津金村にも古関乃址なり後此所に迁せしとみえたり
小尾　穂坂路に係ふ信州河上口あり巨摩郡小尾村の内黒森と云所になり本村これを衛ふ

巖下　北山筋の間道あり巨摩郡江草村乃内岩下組小なり
馬場　津金村へ出て通路あり江草村の内馬場組になり
根假屋　穂坂路若御子等乃通路あり江草村の内根假屋組になり巳上の三所江草村これを衛る
鶴瀬　甲州道中に係ふ郡内口あり山梨郡鶴瀬宿になり
萩原　乃はち武州青梅へ出る萩原口あり山梨郡上小田原村になり上下小田原上萩原乃三村是を衛る
河浦　鴈坂口に係る武州秩父口あり河浦村の内天品組になり本村並に上下柚木上下釜口徳和下萩原乃七村にて是を衛ふ
○
諏訪　甲州道中に係ふ相摸口あり都留郡上野原宿の支村

甲斐葡萄天下
冠涼州馬乳不
堪看何人深透
重淵底採出驪
龍珠滿盤
物茂卿

汝圭

ある諏訪にかゝり
山中　鎌倉海道に係ふ相模口にて駿州駿東郡の界あり都
留郡山中村にかゝり

甲斐叢記巻之二終

国立公文書館
National Archives of Japan